

植物多様性センターの「サンショウの実」

学習園のサンショウに若い実が付いています。サンショウはミカン科サンショウ属の落葉樹です。雌雄異株で4月頃に咲き、実は秋に赤く熟します。種子は香辛料の山椒として使われ、七味唐辛子にも入っています。また、今の時期の未熟な実を「青山椒」、若い葉を「木の芽」、雄花を「花山椒」として食用にします。そのように古来から日本人の味覚を楽しませてきたサンショウですが、香りや辛みの成分は他の生物には毒となるので、アゲハチョウの幼虫などの限られた動物しか食べられないようです。



未熟果：果実は房状に付く。



奇数羽状複葉。表面には油点があり、触れるとよい香りがする。



トゲは対生し、トゲの間に葉や枝、花が付く。



果実が熟すと割れて、4mm程度の黒い種子が出る。